

報道関係者 各位

令和4年3月24日
四国大学／四国大学短期大学部
学長 松重 和美

四国大学「瀬戸内寂聴青春エッセイコンクール」創設の 記者会見について（ご案内）

平素は本学の教育研究活動にご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

四国大学は瀬戸内寂聴氏の名を冠した「瀬戸内寂聴青春エッセイコンクール」を創設することとなりました。

本コンクールは、徳島県を代表する作家、瀬戸内寂聴氏が2021年11月に逝去されたことをうけ、瀬戸内寂聴氏の文学的功績を後世に伝えとともに、若い世代の文学的才能の開花を促すことを目的としております。また、2021年度の開催をもって終了した、本学主催「青春川柳コンクール」の理念を一部引き継ぎ、青春真っ只中の高校生が、自身の体験、意見、想い等を自由に随筆していただくコンクールとなっております。

つきましては、本コンクール創設の記者会見を行いますのでご出席、取材方ご配慮くださいますよう、お願い申し上げます。

記

- 日 時： 令和4年3月30日（水） 10時00分～10時30分
- 会 場： 四国大学交流プラザ1階 TAG-RI-BA【タグリバ】ディスプレイスペース
（寺島本町西2-35-8）
- 次 第： 1) 学長挨拶 四国大学 学長 松重 和美
2) 本コンクール創設についてのコメント
徳島県立文学書道館 学芸員 竹内 紀子 様
3) 本コンクール開催要旨の説明
四国大学文学部日本文学科 教授 佐々木 義登
4) 質疑応答

以上

<本件に関する問合せ先>

四国大学 大学広報戦略室 担当：今出・藤本
TEL: (088)665-9578（平日9～17時）

四国大学「瀬戸内寂聴青春エッセイコンクール」開催要旨

瀬戸内寂聴の顕彰について

徳島が輩出した著名な作家の一人に、瀬戸内寂聴が挙げられます。徳島県徳島市の出身で、『夏の終り』『花に問え』『場所』などの多くの作品を執筆されました。2004年から10年間は、徳島県立文学書道館の館長を務めるなど、古里・徳島の文化振興にも大きな足跡を残されました。また、出家者としても、忘己利他の精神で人々の悲しみに寄り添い、法話を続け、平和活動に力を尽くされました。

本学では、瀬戸内寂聴の文学的功績を後世に伝えるため、四国大学「瀬戸内寂聴青春エッセイコンクール」を創設しました。



高校生の新たな才能の発掘と育成

「瀬戸内寂聴青春エッセイコンクール」の目的のもう一つは、若い世代の文学的才能の開花です。本コンクールは、2021年度の開催をもって終了した、本学主催の『青春川柳コンクール』の理念を一部引き継いでおり、青春真っ只中の高校生が、自身の体験、意見、想い等を自由に記載していただく内容となっております。高校生の中から文芸文化を担う新たな才能を発掘するとともに、受賞者のその後のさらなる飛躍の後押しもできればと考えています。

なお、今回から始まる四国大学「瀬戸内寂聴青春エッセイコンクール」の各賞受賞（大賞、優秀賞、奨励賞 計10名程度）は、四国大学分野別入試（芸術・メディア・ダンス分野）の出願要件となっており、本入試を受験し合格した受賞者には、毎年40万円の特別奨学金を4年間給付することとしています。

以上二本の柱によって四国大学「瀬戸内寂聴青春エッセイコンクール」を新たに開催するものとします。

【瀬戸内寂聴 プロフィール】

1922（大正11）年、徳島県徳島市に生まれる。

徳島県立徳島高等女学校を経て、1943（昭和18）年、東京女子大学を卒業。1957（昭和32）年「女子大生・曲愛玲」で新潮社同人雑誌賞受賞。1961年『田村俊子』で田村俊子賞、1963年『夏の終り』で女流文学賞を受賞。1973年11月14日平泉中尊寺で得度（法名：寂聴）。1992（平成4）年『花に問え』で谷崎潤一郎賞、1996年『白道』で芸術選奨、2001年『場所』で野間文芸賞、2011年に『風景』で泉鏡花文学賞を受賞。2000年に徳島市名誉市民。2006年に文化勲章を受章。

著書に『比叡』、『かの子療乱』、『美は乱調にあり』、『現代語訳源氏物語』、『秘花』など多数。

2021年（令和3年）11月9日逝去。

2022年度

人が集まる「人」をつくる、大学。



SHIKOKU UNIVERSITY

四国大学

四国大学 第1回 瀬戸内寂聴
青春エッセイコンクール

高等学校在学学生対象

